

# いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

## 「いのち」

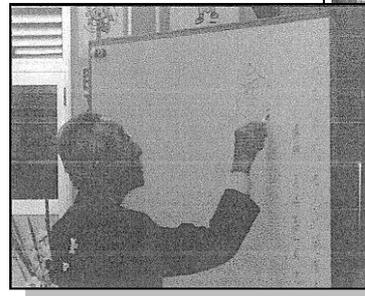
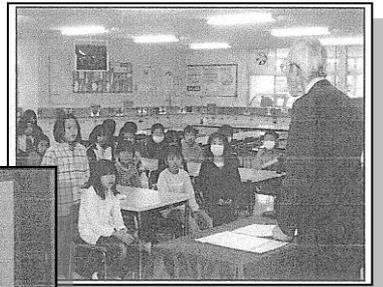
立山町立釜ヶ淵小学校4年、5年、6年児童  
平成21年11月20日実施

## 【いのちの先生】

長嶋 喜一郎先生

### 【授業の概要】

- 1 教頭の話（「いのちの先生」の紹介）
- 2 いのちの先生の話
  - (1) 戦争中の暮らし  
・富山大空襲 ・食糧事情 ・子どもたちの生活
  - (2) 残酷な事件の多発
  - (3) 病気でなくなった友人への思い



おじいちゃん・おばあちゃんへ  
「感謝したいいのち」

家族が私たちが病院へ連れて行ってくれるのは私たちのことを大切にしてくれているからだと思います。いつもわがまま言ってごめんなさい。おじいちゃん、おばあちゃん私たちのためにありがとうございます。これからもお元気で。



おじいちゃんへ  
「大切ないのち」

昔は食べたい物もろくに食べられなかったと聞いて、今の時代は贅沢だと思いました。いのちは「人に一つだけしかない」から今あるいのちを大切にしていこうと思いました。これからもお元気でいてください。

お母さんへ

昔は欲しいものをがまんしてすごいと思いました。私は我慢してないから少しずつ我慢していこうと思いました。そして、お母さんががんばって私のことを育ててくれるから、お母さんに感謝して、自分がお母さんにしてあげられることはしてみようと思いました。

お母さんへ

長嶋さんの話を聞いていのちはすごく大切だと思いました。人生は一度しかないからいろいろなことにチャレンジしたいです。自分からいのちを落とすことは絶対にはいけないことだと思いました。

お母さんへ

昔、戦争があつて、富山市は「火の海」になったそうです。その後、食べ物がなくなり、亡くなった人がたくさんいたそうです。この話を聞いて、いのちの大切さが分かりました。お母さん、本当にありがとうございました。